

都 計 第 4 0 8 号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

都 城 市 長 長 峯



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったこのことについて、別紙のとおり回答します。

（文書取扱 土木部都市計画課）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮崎県都城市

○現状

- ・ 地方は、交通ネットワークが弱いことから、国際競争力や地域活力が伸び悩んでいる。

（道路特定財源等の一般財源化を受けて）

- ・ 道路特定財源の一般財源化が閣議決定されたことで、多くの道路事業の進捗が危ぶまれている。
- ・ 地方の自動車保有台数は全国平均を大きく上回り、日常生活において車に強く依存せざるを得ない状況にあることから、道路特定財源の一般財源化には強い不公平感がある。
- ・ 費用対便益の観点から道路整備の優先順位を決められると、都市部に比べ地方は非常に不利である。とりわけ本地域については、九州内ひいては全国とも格差があり、市民生活に於いても遅れているという認識が高い。

○課題・要望

- ・ 多軸型の国土構造の形成がなされておらず、特に地方部においては、交通ネットワークの整備の遅れが目立つ。地期間格差を是正し均衡ある国土の発展には、広域ネットワークの基礎となる地方の高規格幹線道路や地域高規格道路の整備は欠かすことができない。

- ・ 地方にとって真に必要な道路整備に対し、十分な予算を確保して欲しい。

- ・ 一般財源化には、道路特定財源の目的から逸脱せぬよう、地方の道路財源に充てられるよう望む。また都市部より、重税感の高い地方の自動車ユーザーが納得できる使途に限定して欲しい。

《中期計画における評価のあり方に関する提案》

- ・ 規制緩和により公共交通機関の撤退が進む中、道路は残されたライフラインであり、費用対効果だけで一概に必要性を諮るべきではない。
- ・ 肉用牛・豚・ブロイラーの産出額がそれぞれ日本一である都城市をはじめ、同様に農畜産地帯である大隅地域を含めた当圏域は日本有数の食料供給基地であり、都市に対して大きな便益を果たしている。中期計画における都城志布志道路の評価においては、従来の評価手法の中に、地域が都市部及び国に対して果たしている役割等も評価項目として加えていただくことを要望する。

②-1 地域の現状と抱える課題

宮崎県都城市

○現状

中核国際港湾である志布志港から、全国有数の農畜産地帯である都城地区への大型車の通行による

- ・ 幹線道路の交通混雑・交通渋滞の助長
- ・ 道路周辺住民への騒音・振動等の居住環境の悪化
- ・ 通学路への危険性の助長などの、課題が生じている。

- ・ 市道の既存の歩道は、老朽化しており大半が旧道路構造令に基づいた狭い幅員でマウントアップ型になっている。特に市街地については、出入口が多く、バリアフリーには程遠いものになっており、有効利用されていない。

- ・ 国道10号は、上下2車線ずつの道路であるが、上りは、平江交差点手前で1車線が右折専用になるため、時間帯によっては交通渋滞の一因になっている。また、直進車線への急な割り込みもあり危険な状況である。

- ・ 都城市は、市道延長が約3,320km（1、2級市道約490km）と宮崎市の約1.4倍あり、まだまだ未整備路線が多く、整備の要望も多い。生活道路の整備については、臨時地方道整備事業（起債）で、低コストの方法・工法を採用して必要最小限の事業費で実施しているが、幹線道路整備については、補償費等で高コストのため臨時交付金事業等の補助事業に頼らざるを得ない。都城市の交通ネットワーク上、重要な位置付けになっている、或いは交通安全上必要な路線であるにも関わらず、事

○課題

- ・ 外資コンテナ貨物等の増加に対応する為に整備している志布志港新若浜地区の供用開始（平成21年春）により、大型車の増加が予想される。

- ・ 地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後さらに増加が予想される局地的な集中豪雨等により、幹線道路が寸断された場合の迂回路がない。

- ・ 市街地の拡幅は、用地補償が高額となり現実的でないため、既存ストックをいかに安く有効利用できるかを模索する必要がある。

- ・ 交通流の安全確保を図るため、拡幅及び車線見直し等の対策を講じて欲しい。

- ・ 道路特定財源を道路整備のために確保し、臨時交付金制度等の拡充及び補助率アップを図り、地方財政負担の軽減をして欲しい。

業着手できていない路線が未だ多数残っている。それにも関わらず、10
年程前から道路事業費低下の一途をたどってきており、ここ数年は特に
その傾向が強くなっている。新規路線は、事業計画を立てても前に進む
ことができずに、足踏み状態で、毎年、着手年度を後年度にスライドす
るだけの状態である。

②－２ 地域の目指すべき将来像

宮崎県都城市

当市の総合計画において、目指すべき将来像は、【南九州の産業・経済・教育・文化をリードする『市民の願いがかなう南九州のリーディングシティ』】としている。当地域は県境を有しているが、鹿児島県の大隅地域とは歴史的・経済的な結びつきが非常に強い。地方分権の進展に伴う地域間競争の時代においても、一帯の高いポテンシャルを活かし、南九州の産業・経済・教育・文化をリードしていかなければならない。

大隅地域と都城圏域とを接続する地域高規格幹線道路を整備することにより、

- ・ 優れたアクセス道路が確保されることで企業誘致を促進し、安定的な雇用機会の拡大が図られる
- ・ 高速交通ネットワークの整備により、農畜産物や工業製品の輸送が効率化・高度化する
- ・ 救急搬送における、生存率の向上につながる
- ・ 志布志港を玄関口とし、都城をはじめ宮崎・鹿児島・人吉を含めた観光ルートができる

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・国際競争力の強化のための交通サービスの向上	地域高規格道路「都城志布志道路」の整備促進	・アジアをはじめ北米、豪州等世界各国と結ばれる志布志港は、南九州における国際物流拠点港である。都城志布志道路は、この志布志港と南九州の広域交流拠点都市である都城市とを約 30 分で結ぶ自動車専用道路である。 都城・曾於地区は全国でも有数の農畜産地帯であり、家畜の飼料の多くは志布志港から大型車で運ばれている。 都城志布志道路の整備により、現在もたらされている交通混雑や周辺住民への騒音・振動が解消される。また、地域間の人的交流が促進されることにより、広域的な地域間連携が強化され、多様な資源から、住民の様々な活動や企業の生産活動等に係る多くの選択肢を得られるものと考えられる。特に、現在の志布志港の外貿の 1 % 程度しか占めていない輸出業には、今後大きな可能性があると考えられる。	